

びわこ地球市民の森

Vol.34

森づくりサポーターニュース

平成22年(2010)10月1日発行

びわこ地球市民の森(森づくりセンター)

〒524-0101 守山市今浜町3089 TEL 077-585-6333 FAX 077-585-6312
メールアドレス moridukuri@ex.biwa.ne.jp URL <http://www.ex.biwa.ne.jp/~moridukuri/>

夏のサポーター活動

2010年度の第2回目の夏季の「森づくりサポーター活動」が7月24日に行われました。サポーター42名とガールスカウト36名の参加がありました。

サポーターの皆さんには、「ふれあいゾーン」で2003年に植樹をした地区について、除草やクズの除去に汗を流していただきました。

ところで、今年の夏は例年になく猛暑で、ここ守山市でも7月19日からずーっと最高気温35度をこえる炎天下に見舞われました。日本のあちこちで熱中症で亡くなったり、病院へ運ばれる人がでている情報があつた中での作業で心配もありました。また、あらかじめこの暑さと自分の体力を勘案して今回は参加を控えられた方もいたようです。

参加された方々には、幸い事故もなく無事活動を終えていただきました。

しかし、地球温暖化が叫ばれる昨今、来年度以降も涼しい夏を期待できそうにもないので、夏季のサポーター活動の日の設定については、事務局として今後、検討の余地がありそうです。

一方、ガールスカウトには、中村寛先生から「ホタルの不思議」といった題で自然についての学習をしてもらいました。そのあとドングリの苗畑の除草とドングリ苗をポットに植え替える作業をしてもらいました。また「森づくりセンター」でクラフト(パーツアート)作りを楽しんでももらいました。

これらの作業のあと、大人も児童も恒例のスイカを食べての暑気払いとなりました。汗を流したあとのスイカはとてもおいしそうでした。エンディングはガールスカウトによる「スイカ割」を楽しみました。

猛暑のなか、森を育てる活動に参加いただいたサポーターの皆さまご苦労さまでした。



立っているだけでも汗ばむ中、懸命の除草作業でした



ドングリから育った元気な苗、まわりの雑草をひいて植え替えました

ビオトープシリーズ その1

『ビオトープの定義について』

ビオトープについては皆さんご存じかと思いますが、一度おさらいをさせていただきます。

ビオトープとは、語源はギリシャ語に由来するもので、バイオ(bios)は生き物を意味し、トープ(topos)は場所を意味します。

ドイツの動物学・生態学者カール・メビウスが1877年に動植物の生物共同体の生息場所として使い始めた言葉だと考えられています。日本では定義が定まらず、それぞれの分野で自由に使われているといった印象もあるようですが、決して定義が揺らいでいる用語ではないようです。

ビオトープの意味をより明確に理解するには、ドイツの地理学者レーザーが整理したものに従うのがよいとされています。それによりますと、ビオトープとは、生物の生息状況について種と種の関係性(バイオシステム)よりも、その場所の空間構造的要素に注目して自然環境を見たものであると理解することができるようです。

つまり、**ビオトープ**とは、野生生物の生息可能な自然生態系が機能する空間を意味する概念と言えるようです。(簡単に言えば、地域の野生生物のすみかです。)

生態系は、要素間の関係性や循環に注目した自然環境の見方であり、**ビオトープ**は土地、場所としての要素に注目した自然環境の見方であるようです。私たちが日常的に海の自然、山の自然、川の自然と呼んでいる感覚にビオトープは最も近いようで、一般的な“自然”に近い用語であると考えられています。池沼、湿地、草地、雑木林など私たちのまわりにはさまざまなタイプのビオトープがあり、皆さんに支えられ育ってきています**びわこ地球市民の森**も立派な1つのビオトープと言えます。



今年、ふれあい池でみられたかわいい子どもたち(子ガメ・カルガモ親子)

次に、なぜ近年ビオトープが重要視されてきているかについてです。

それは、いまのまま人類が豊かな生活を続けていくと、あと30年から40年で石油資源や金属資源の枯渇が始まると言われたり、地球温暖化などで地球全体の破局が目前に迫っていると言われている現在、人類が存続していく上で、最も大切な自然生態系の保全と回復にかかわることだからです。

自然生態系の機能や自然資源の利用可能性は、野生動植物の生存状況と密接な関係があると言われていています。

野生生物が存在し、その働きがあってはじめて自然生態系の健全性が保持されますし、将来世代も利用する人間の生存基盤である生態系の健全性を存続させたり、回復するためには、一つひとつのビオトープを確実に保護、復元し、そしてそれらによるネットワークを形成・推進し、生物多様性を確保する必要があると言われていています。

また、ビオトープという概念は、小さな生き物が生息する空間の保全・復元から、広域的な土地利用の策定までの幅広い環境保全戦略の基礎単位として活用できるので地球環境時代の今日、重要視されてきていると言えるようです。

このほか、ビオトープづくりは自然再生を意味するものであり、私たちの気概や自然志向が高まってきたからとも言えそうです。

(「ビオトープブック 生物多様性保全の科学と政策」小杉山晃一著および「ビオトープの基礎知識」ヨーゼフ・ブラーブ著を参考にしました。)

樹木の名前 豆知識シリーズ その1

生物の名称に関して、学術的な表記はラテン語を用います。

例えば、日本特産の樹木の「スギ」でいうと、漢字では「杉」ですが、「クリプトメリア・ジャポニカCiptomeria japonica」というのが、世界で通用する学名です。

日本特産ならば、せめて「Sugiすぎ」とでも書いてもらいたいところですが、そうはいかないのです。世界中には、種はちがってもスギの仲間（同属）がたくさんあるからです。

ヨーロッパで、歴史が古くソクラテスやアリストテレスを生んだ古代ギリシャが学問発祥の地とされたためなのでしょう、中世までヨーロッパの公用語でもあったためでしょうか、およそ微生物（ウイルスvirus）も植物も動物も恐竜（〇〇ドン、〇〇サウルス）も、果ては人間（ホモ・サピエンスhomo・sapiens）も、世界で共通する生物の表記（学名）は英語にあらず、ラテン語なのです。

生きもの分類は、おおくりに分類したものを「目」さらに「科」、この中を小分類した「属」、さらに個別の「種」となりますが、「目」、「科」、「属」、「種」ともすべて正式な表記はラテン語です。

例えば、身近にみる生物の例では、下の表のようになります。

漢字（日本語）	分類カテゴリー				英語
	目	科	属	種（学名）	
犬（いぬ）	Carnivora ネコ目（食肉目）	Canidae イヌ科	Canis イヌ属	Canis lupus familiaris	dog
猫（ねこ）	Carnivora ネコ目（食肉目）	Felidae ネコ科	Felis ネコ属	Felis silvestris catus	Cat
紋白蝶（もんしろちょう）	Lepidoptera チョウ目（鱗翅目）	Pieridae シロチョウ科	Pieris モンシロチョウ属	Pieris rapae	Small White
燕（つばめ）	Passeriformes スズメ目	Hirundinidae ツバメ科	Hirundo ツバメ属	Hirundo rustica	Barn Swallow
山桜（やまざくら）	Rosales バラ目	Rasaceae バラ科	Prunus サクラ属	Prunus Yamasakura	
赤松（あかまつ）	Pinales マツ目	Pinaceae マツ科	Pinus マツ属	Pinus densiflora	Japanes RedPine

日本でも生きものに関する公式な表記は、ラテン語（学名）をカタカナで書いています。

例えば、滋賀県でも近年物議をかもしている外来生物のブルーギルやアライグマも「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（略称：外来生物法）ではその施行令で例えば、「レボミス・マクロキルス（ブルーギル）」「ポロキュオン・ロトル（アライグマ）」のようにカタカナで、日本語の名称は後ろに括弧書きで記されています。学名は学者・専門家は別として、一般の人には“何のこっちゃ”となるわけです。

ということで、生物について、植物（草花、樹木）も動物（昆虫、鳥、ほ乳類）も日本語の表記はすべてカタカナで書かれています。いろいろな図鑑でも種の名称はまずはカタカナ表記となっていますね。

松、竹、梅、桜ぐらいはカタカナより漢字（せめて平仮名）のほうが日本語の表記としてはしっくりくるのではないかと思います。残念ながら「生物」を表す漢字の多くは常用漢字の中には含まれていないので、日本語での公式表記はカタカナとなっています。

ところで、小学校6年までに習う1006字の教育漢字には「樹木」の漢字として「松」「竹」「梅」「桜」の4字だけしかありません。お酒の銘柄で「松竹梅」というのがありますね。正月のお飾り気分の縁起のいい名前とも言えますが、将来のお得意さんとなる子供達にも早くから深層心理への事前コマーシャルよろしく小学生でもわかる漢字でお酒の名前を印象づけた社長さんは賢い方なのでしょう。

さて、今年の6月に常用漢字に「茨」、「柿」、「栃」、「藤」、「葛」、「梨」、「椎」の7字が加わったものの（全常用漢字2136字）、それまでの常用漢字に含まれる樹木の漢字は、教育漢字以外では「杉」「桃」「朴」「柳」の4字だけでした。これではとてもあまたある樹木を表記する漢字をまかないきれません。

でも、一般に「栗」「桂」「桐」「椿」「楠」「萩」「梨」「樺」等の樹木を表す漢字はほとんどの方は読み（書き）ができると思います。これらは常用漢字ではないのですが、常用漢字以外で「人名」として使える漢字（旧字体も含む）980字の中に含まれているため、特に学校で習わなくとも、人とかかわりや経験の中で一般には承知されるようになっています。

【人名用漢字】として使える樹木を表す漢字です。：いくつ読めますか。

栗 桂 桐 柏 椿 檜 桧 檜 楠 樟 榎 榎 樺 橘 萩 杏 柰 桜 柚 柰 梓 棕 椰 榿 楓 楊 榛 檀 梧 槐

このシリーズでは中国4千年の歴史の中で生まれた樹木の漢字にまつわるお話や、日本にその漢字が入ってきてからの使われ方（当て字や誤用も含めて）についてのお話をしていきます。

まず、今回は日本でおなじみの「松」「梅」「桜」のお話からはじめます。

森づくりトピックス

里の森ゾーンの水辺の花

ヒシは池や沼などに生える一年草の水生植物

水面に浮かぶように白い花が咲く
花弁は4枚。花径は1cmで10月ごろまで咲く



タコノアシは水辺に生える多年草

余り目立たない黄緑色の花が咲く
花の直径は0.5mm、花弁はなく、花は五角形
花序に小さい花が密に付いていて
「吸盤のついたタコの足」のように見える
ことからこのような名前になったという

お知らせ

森づくりサポーター活動の計画

- 実施期日** 平成22年10月10日(日)
- 内 容** 植樹地の間伐、枝落とし、ドングリ苗の植え替え
- 実施期日** 平成23年3月5日(土)
- 内 容** 植樹地の間伐、枝落とし、シイタケ菌打ち

2010年5月末現在	
植栽面積	61,068㎡
参加者数	34,142人
植栽本数	122,412本
(つどいのゾーン)	23,351本
(ふれあいゾーン)	37,445本
(出会いのゾーン)	21,158本
(里の森ゾーン)	40,458本

編集後記

今年の夏は猛暑つづき、いや酷暑つづきといっても大げさではなかったですね。サポーターの皆さま元気に夏を乗りきられたでしょうか。これからは多少は涼しくなと思いますが、行楽の秋、スポーツの秋、食欲の秋とともに読書の秋ともいいいます。当森に関する情報とともに、本号から自然や樹木に関するコラム欄を掲載することにいたしましたので、ご一読ください。